

役員就任挨拶



センター会長就任にあたって リスクの科学に目を向けたい

北海道技術士センター 会長
技術士（建設部門）、工学博士

伊 藤 昌 勝

先の総会で、皆のために汗を流せ、とセンターの会長を任命されました。ご迷惑を大きくしないように務めさせていただきます。ご支援の程、宜しくお願いします。

知 名 度

技術士は全国で5万人と言われております。最も権威の高い技術者資格ではありますが、知名度と言う点では、一級建築士の足元にも及ばないのではないのでしょうか。これは、人数の問題よりも市民生活との関わりの深さにあると思われます。

実はこの私も、資格を頂くまでは名称は知っていても実態は？、と言うのが正直なところですが、最多数を誇る建設分野の皆さんは、公共事業に携わる機会も多い訳ですが、官公庁の理解もイマイチの感があります。各自の分野で「さすがは技術士、いい仕事をする」と言う場面をたくさん作って行きたいものです。私なりの努力もしてみたいと思います。

リスクの科学

先年、技術士センターではリスクマネジメントに関する研修会を行いました。巨大技術は人類に災厄をもたらすと、拒絶に近い反応も世間にはあります。私は、金融や医療など社会の多くのシステムは、リスクを如何に回避し或いは最小化するかを目的に、組立てられ改善努力がされているのだと解釈しております。特に技術界においては、これまで以上に世間の信頼を高める意味で、リスクを更に綿密に科学することが大切だと考えます。

遠い過去に、巨大隕石の衝突で、一万年ほど地上の生物が途絶えたと言う有力な説があります。宇宙の普通の営みから考えると、衝突は何時でも有り得

ることです。ただ、人類の生存にとって無視し得る程の確率なのでSFの世界に留まっているのだと思います。リスクは確率と損害の大きさの問題です。

私は、子供の頃から原子力に大きな期待を抱いてきました。今でも、原子力を葉籠中の物にできれば、国際紛争の半分は無くなると信じております。原子力には様々な心配事があります。しかし、それはリスク管理の問題です。残念ながら北海道には、廃棄物を冷静にリスク管理問題として議論する雰囲気がありません。一体、貯蔵施設から放射能が地下水に溶け込み、牧草に取り込まれ、更に牛乳に残存する確率が、巨大隕石衝突のそれと如何ほど違うと言うのでしょうか。

火の用心に心がけ、難燃材を使用し、防火設備を整えたとしても、なお消防車は必要と考えるのが一般感覚でしょう。消防士は毎日訓練を重ね、機器はピカピカに磨いておく。その費用を惜しめと言う人は、まずいないと思います。しかしながら、この漠とした安心感と巨大技術への不安感は、しっかり科学されていない点で、相通じるような気がします。

人の思惑に左右される社会事象と違って、技術はかなり確かな世界です。リスクの科学に目を向けることで、これを一層深めて行きたいものです。

しっかりと伝える

21世紀を迎えてこの方、技術の進展のめまぐるしさを身にしみて実感します。しかし、難解な高等数学も基本は加減乗除。技術者には、基本を押えて受継いだものを発展させ、しっかりと伝える役目があります。このためにも、活動し易いセンターであり続けて行きたいと思います。改めて会員の皆様のご協力をお願い致します。